令和５年度

興南高等学校
入学試験問題

中　期

国　語

令和５年２月 18 日（土）実施　　50 分／100 点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで，この問題用紙は開かないようにして下さい。
   解答用紙は別になっています。

2. 問題は【一】～【三】まで３題あります。

3. 試験時間は 50 分です。

4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。

5. 解答は楷書（かいしょ）で丁寧（ていねい）に記入して下さい。

6. 解答用紙には，受験番号，中学校名，氏名を必ず記入して下さい。

7. 試験終了後，問題用紙は持ち帰って下さい。

【　一　】　次の〈文章Ⅰ〉・〈文章Ⅱ〉を読んで後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された解答方法以外で記入した場合は採点されないため注意せよ。

〈文章Ⅰ〉

「近ごろの絵は、何が描いてあるのか、わけがわからない」と言われながら、また、今日ほど、芸術が深く生活にしみわたり、切りこんでいる時代はありません。

かつて、「芸術」は、大変高度なもので、①だれにでも理解できるとは考えられていませんでした。特権階級や専門家たちの独占物だったのです。しかし、ようやくその枠は踏み破られて、およそ芸術などとは無縁だと思われていた一般の人びとの生活に、広く食い入り、深くしみ込んでいます。

このようなあり方こそ、[a]メイロウな近代性です。しかも今日、芸術は新しい形式を作り上げることによって、かえって、真に人間の根源的なよろこびを取り戻し、いまだかつて見られなかった自由と強烈さを誇っています。

ところで、古い考えにわざわいされて、まだ芸術をわかりにくいものと敬遠し、他人事のように考えている人があります。私は、このすべての人びとの生活自体であり、生きがいである今日の芸術に対して、②うかつでいる人が多いのがもどかしい。

これは何といっても一般に、「絵とは、こういうものだ」という固定観念がしぶとく食いいって、純粋、率直な鑑賞をじゃましているからにちがいありません。たとえ自分では気がつかないでいても、人はいつのまにか古い習慣の無批判なとりこになっているのです。

よほど、正直に判断しているつもりでも、また芸術について別段考えたいこともないから、偏見だとか固定観念などもっていないと思っても、じつは大人になるまで目にふれ耳にしてきたすべてが、知らずしらずのうちに、[b]膨大な知識・教養になっているのです。それらは、物事に対して目をひらく力にもなっています。しかしその反対に、ものを自分の魂で直接にとらえるという自由で、自然

な直観力をにぶらせていることもたしかです。もちあわせの常識で型どおりに割りきって見ようとする、悪い意味の通俗性[*1]と功利的[*2]な人生観をあたえ、かえって、人間としての純粋さを失わせることが多いのです。まして時代おくれの教養にゆがめられている場合には、なおさらのことです。

そんな常識や教養のうえに、のうのうと、あぐらをかいていてはしかたありません。自足せず、つねに新しい問題に全身を打ちつけて、古いおのれを乗り越え、精神を新鮮にたもたなければ、いつのまにか③不純で、無用な垢(あか)が、目に耳に、そして心の中にまで、のっぴきならないほど、いっぱいにつまってしまうものなのです。

たとえば、花は美しい、富士山は④結構だということは、常識として、子どものころから、ちゃんとつぎこまれています。だから、花というと、ろく[*3]すっぽ見もしないで、「きれいだ」と、合言葉のように言ってしまったりします。女の子の花模様の着物なども、そうです。ほんとうの形の美しさも、色の調和も、そっちのけにして、ただ「花」だからきれいなものと思い込んで身につけているにすぎません。これは、ほんの一つの例です。事実は、さらにさらにフクザツ[c]怪奇なのです。

近所つきあいや処世術[*4]などとちがって、純粋に直観しなければならない⑤芸術鑑賞には、まず、このような「不要な垢」をとりのぞいてかかることが先決問題です。聞いたり、教わったりするんじゃなく、自分自身が発見する。自分の問題としてです。そうすれば自然に自分自身で、直に芸術にぶつかることができるのです。そして、芸術こそ他人ごとでなく、自分自身の問題であり、生活自体だということがわかってきます。

【　岡本太郎『今日の芸術』光文社知恵の森文庫より　※問題作成の都合上一部改変　】

〈文章Ⅱ〉

優れた絵というのは高度なテクニックを駆使し、真に迫るリアルさと迫力で対象を描いたものだ、という考え方があります。あるいは、綿密な計算のもとにやはり高度なテクニックを駆使して、崇高(すうこう)[*5]な美や言葉にできない内面を表現したもの。そうしたものこそ

修練を経[d]たプロの絵だと信じる人にとっては、ピカソ[*6]の絵はどこがいいのかわからない。形はめちゃくちゃだし、色は強烈だし、見ていて落ち着かない。「プロの修練の跡」が見当たらない。みんな凄いって言ってるけど、ほんとに心の底にからそう言ってるの？ピカソだとわかってるから褒めてるだけじゃないの？と思っている。

それに対し、「いや、ピカソは十代の頃にもう師匠より上手かったんだよ」とか「青[*7]の時代はデッサン力がすばらしい」などとフォローする人がいます。一部でわけのわからん絵の代名詞ごとく言われているピカソだが、実はスーパーテクニシャンであって、その技術をあえて使わず、新しいものの見方を取り入れたからすごいのだ。そう説明されると、わからなかった人も「そんなに上手く描けるのにわざわざあんな絵を描いたのは、まあ天才のなせる業なんだろう」と自分を納得させる。

どちらも「ピカソはもともと写実的な絵が上手い」ということに一定の安心感を見出している点では同じです。写実的な絵の上手さ、巧みさという専門技術への憧れ、信頼が大きいのです。

ところで、それと同じくらい影響力をもっているのは、「絵ってものは自由に見ていい」「対象を見える通りに描かなくてもいい。感じたように自由に描けばいい」という考え方です。また、自分にはよくわからない作品を前にした時、「自由に見ていい」なら、「作者は何を言いたかったんだろう」「どういう考え方で絵を作っているのだろう」と悩むこともありません。

A 、ピカソも往々にして「自由」というキーワードで解釈されます。彼は常人の及ばぬような自由さを発揮できる個性的なアーティストのシンボルとなっています。

≪ 中略 ≫

ピカソの革新性と類まれな「野蛮さ」は、[*8]岡本太郎など一部のアーティストには強くウッタ[e]えるものがありました。しかし近年再評価の気運著[f]しい岡本太郎が手掛けた大阪万博の『[*9]太陽の塔』は当時、文化人たちから悪趣味だと散々不評を買いました。日本人でピカソにもっとも接近した画家・⑥岡本太郎に対しては好き嫌いが激しく分かれていた。

つまり、この非西洋的環境の中では、ピカソそのものが受容されたのではなく、「ピカソ的」なるものが一つの趣として薄まって広がったのです。強烈なオリジナル（＝アート）より口当たりの良い加工品（＝文化）が好まれるのです。

近代以降のアート、芸術は、社会や共同体に認められた価値体系である文化にとっては「異物」だった。強烈なオリジナル（＝アート）より口当たりの良い加工品（＝文化）が好まれるからです。しかし、そうやって登場してきたアートも、やがて社会や共同体の中で次第に受容され広がり定着し、文化、［B］、「芸術文化」となっていき保護されていくのです。

【　大野左紀子『アート・ヒステリー』河出書房新社より一部抜粋　※問題作成の都合上一部改変　】

【語注】

＊1　通俗性…一般的に受け入れられるさま。
＊2　功利的…利益や効果があがるかどうかに価値を見出す傾向。
＊3　ろくすっぽ見…まともに見ないさま。
＊4　処世術…生きていく方法、世渡りの方法。
＊5　崇高…気高く偉大なようす。
＊6　ピカソ…スペイン生まれでフランスで活躍した画家。
＊7　青の時代…ピカソの青を基調とした作風の時期。
＊8　岡本太郎…日本の芸術家。
＊9　『太陽の塔』…一九七〇年に開催された日本万国博覧会会場に作られた塔。

問一　二重傍線部a～fのカタカナを漢字に改め、漢字には読みを平仮名で書け。

a　メイロウな近代性　　b　膨大な知識　　c　フクザツ怪奇　　d　経た　　e　強くウッタえる　　f　気運著しい

問二　傍線部①「だれにでも理解できるとは考えられていませんでした」を文節に区切り、その数を漢数字のみで答えよ。

問三　傍線部②「うかつでいる人が多いのがもどかしい」とあるが、筆者がこのように感じているのはなぜか。その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　芸術は以前と変わらず特権階級や専門家が独占するものではあるが、私たちの生活を豊かにするものとして欠かせないものでもあるため、理解に努めるべきだから。

イ　芸術は依然として特権階級や専門家だけでなく庶民の生活も豊かにする不可欠なものだが、これまで真の意味が理解されず、単に消費されるだけのものだったから。

ウ　芸術は人間にとって生きる意味を生み出すものであり、現在は生活の中に広く浸透するようにもなっているが、古い考えに縛られて関わりを避けている人が多いから。

エ　芸術は人の生き方や生の意味を体現するものだったが、現在の常識に縛られることで生活と無縁なものになりつつあり、他人事のように接してしまう人が多いから。

問四　傍線部③「不純で、無用な垢」について以下の問いに答えよ。

1　「不純で、無用な垢」と**異なる内容**を表しているものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア　古い習慣　　イ　目をひらく力　　ウ　もちあわせの常識　　エ　時代遅れの教養

2　1の具体例として**当てはまらないもの**を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア　花は美しい　　イ　富士山は結構だ　　ウ　女の子の花模様の着物　　エ　近所付き合い

問五　傍線部④「結構だ」の品詞と活用形として最も適当なものを次のア～カから選び、それぞれ記号で答えよ。

（品詞）　ア　形容詞　イ　連体詞　ウ　名詞　エ　接続詞　オ　感動詞　カ　形容動詞

（活用形）　ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　仮定形　カ　命令形

問六　傍線部⑤「芸術鑑賞」に対する筆者の考えに**当てはまらないもの**を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア　芸術に対する他人や世間の考えにとらわれすぎず、純粋に向き合い自分の意義を発見する必要がある。

イ　芸術鑑賞には自由で自然な直観力が必要であり、自分自身の魂で直接的にとらえていくべきである。

ウ　芸術鑑賞を通じて他者の表現を自己の問題としてとらえ、自分の精神を新たにしていくことができる。

エ　芸術に対する自己の考えを日常生活の中で磨くことで、他者の芸術観を変えていくことができる。

問七　[A]・[B]に入る接続語として最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

ア　しかし　イ　したがって　ウ　あるいは　エ　たとえば　オ　なぜなら

問八　傍線部⑥「岡本太郎」について、〈文章Ⅱ〉にみえる岡本太郎への評価から、彼は芸術をどのように捉えていたと考えらえるか。〈文章Ⅰ〉から四字で特定し、そのまま抜き出して答えよ。

問九　〈文章Ⅰ〉〈文章Ⅱ〉の筆者の考えの異なる点を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　前者が大衆の芸術に対する姿勢を改めるべく積極的なのに対し、後者は次第に変化していくものとして立場を異にする。

イ　前者が大衆と距離をおく芸術家を批判するのに対し、後者は芸術家が大衆と芸術を繋ぐものとして評価する立場をとる。

ウ　前者が近代性に囚われた現代人の生き方を批判するのに対し、後者は現代人がそこから徐々に解放されつつあると述べる。

エ　前者が芸術の積極的意義を中心に伝えているのに対し、後者は芸術の多様な側面と関わり方があることを紹介している。

【　二　】次の文章は伊藤整の青春時代を描いた自伝小説の一部である。以下の文章を読んで後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された解答方法以外で記入した場合は採点されないため注意せよ。

*1梶井はぶらぶらと歩いていき、喫茶店に入った。彼はそこで自分と私のために苺(*2いちご)クリームを注文した。それをたべながら、私は、いま我々が食べるものとしては苺クリームが、最も似合っている、と思った。その苺クリームは、*3結核患者で清潔好きの梶井という若い小説家と、詩人である大学生の私とが五月の晴れた日に街を歩き、子供の石を投げるのをやめさせた西洋人の前を通った後で、ちょっと腰かけて食べるものとしては、実に似合っていて、それ以外の何物でもふさわしいものに思われなかった。私はそう感じて、①ほっとした。私は梶井とのこの日の散歩の明るい感じが損われずに終ったことを喜んだ。

「伊藤君、君は②志賀直哉の小説を読んだことがありますか」と梶井が言った。

私は志賀直哉の作品をほとんど読んでいなかった。私は、それまで小説には興味を持たなかったので、小説を読む場合にも、佐藤春夫や室生犀星(むろうさいせい)などの詩人出の小説家の作品を多く読んでいた。また③谷崎潤一郎のような感覚的なイメージを使う作家のものは分かりやすいので読んでいた。志賀直哉や武者小路実篤の作品は、意味だけをドライな形で伝えようとするもので、詩的な発想には無関係だと私は思っていた。私は答えた。

「いや、読んでいません。」

④「君、志賀直哉を読みたまえ、志賀直哉はいいですよ。」と梶井が言った。それは志賀という作家を尊敬しているというよりも、志賀という作家の良さを自分が認めて、保証してやるというような言い方であった。

「伊藤君、文章というものはね、我々はいつも活字で読んでいるだろう？活字というものは魔物でね。あれで読んでいると、書いているときの息づかい、力の入り方が分(わか)らないんだね。僕は志賀直哉のものを原稿用紙に書き写してみたんだ。するとね、書いてる人の息づかいが、よく分るんだ。ここで力が尽きて文章を切ったとか、ここで余力があって次へ伸びて行っている、というようなこと

が分るんだ。」

彼が、志賀直哉のものを書き写している、と言った時、私はすぐ、オレなら他人のものを書き写すようなことはしないぞ、と思った。それが［A］的なことに思われたのだった。しかし、私は、自分も同じようなことをしていることに気がついた。私は三四年前から、読んだ詩で感心したものは有名な詩人のでも、無名な投書[a]家のでも、ノートに書き写す習慣を持っていた。そして私は、詩壇（しだん）の有名さということと私の感心する詩とが、ほとんど関係がないこと、同人雑誌[*4]や投書の詩に案外いい作品があり、著名な詩人の作品には、取るべきものが少（すくな）いことに気がついていた。オレが選んでやるのだ、という気持ちで私は書き写していた。それは書き方を習うというよりは、オレの鑑賞眼に及第[b]したものを取ってやるのだ。という［B］を感ずる仕事であった。あれと同じことかも知れない。と私は考え直した。しかし梶井の言った言葉の後半分を聞いたとき、梶井の言っていることは、それとも違うことが分った。

彼の言っているのは、屈辱とか誇りということではないのであった。感心した作品を、原稿用紙に写してみると、その作品が書かれる時の、書く人の心の動きそのものが具体的に分る、という技術的なことであった。書くことの技術、その字配りの中にある気息というものを理解しなければ何を言っても駄目だ、だからやってみるのだ、という技術的真剣さが彼の言葉に漂っていた。この男は書くことそのことの実質をとらえようとしている、と思った時、私は自分の心の中に沸きだしかけていた「そんなこと僕はしませんよ」という言葉を押し戻さねばならなくなった。そして私は梶井が言うものだから、⑤志賀直哉はいい作家かも知れない、と思った。

【　伊藤　整『若い詩人の肖像』講談社文芸文庫より一部抜粋　※問題作成の都合上一部改変　】

【語注】

＊1　梶井…梶井基次郎、大阪市生まれの小説家。繊細な感受性による特異な心象描写の短編に秀でるが結核で早逝（そうせい）。

＊2　苺クリーム…大正～昭和初期の雑誌『主婦之友』によると、生イチゴをカットしたものにクリームをかけただけのものとある。

＊3　結核…結核菌による感染症、戦前までは致死率が高かった。

＊4　同人雑誌…ここでは文芸同人誌、文学作品発表の場。

問一　二重傍線部a・bの本文中における意味として最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

a　投書　…　ア　疎遠な人との手紙のやりとりをすること　　イ　質問や意見を述べた書状を関係機関に送付すること
　　ウ　不正を取り締まる機関に密告すること　　エ　取るに足らない内容を自分の備忘録として残すこと

b　及第　…　ア　ある基準を満たしているかの審査に合格すること　　イ　一定の基準に達していないこと
　　ウ　競争において先行する者に追いつくこと　　エ　順序や並びが整然としていること

問二　傍線部①「ほっとした」理由の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　この日の散歩は病を抱える梶井にとっては懸念されることが多かったため、心身ともに清浄な状態を保つべく見つけた喫茶店とメニューに心癒されたから。

イ　この日の散歩に相応しいデザートを考えあぐねていたが、梶井が状況を察しこの場に相応しい理想的な注文をしてくれたため一気に悩みが解消されたから。

ウ　この日の梶井との散歩の心持ちには爽やかな苺クリームが最も似つかわしかったため、不相応なメニューによって気持ちを乱される恐れがなくなったから。

エ　この日の梶井との明るい雰囲気の散歩を妨げられたくないと思っていた折、二人だけで語り合うのに最適な喫茶店と提供メニューが見つかり安心したから。

問三　傍線部②「志賀直哉」、③「谷崎潤一郎」の作品を次のア～オから一つずつ選び、それぞれ記号で答えよ。

ア　友情　　イ　檸檬　　ウ　細雪　　エ　斜陽　　オ　和解

問四　傍線部④「君、志賀直哉を読みたまえ、志賀直哉はいいですよ」とあるが、この時の「私」の説明として考えられるもののうち最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　自分は小説よりも詩に慣れ親しんでいただけでなく、小説やその作家に対しても偏狭な考えをもっていたため、梶井の言葉の意図を邪推してしまっている。

イ　自分の敬愛する梶井と楽しい時間を過ごしているが、梶井が自分の作品ではなく志賀直哉の作品を薦めてきたと勘違いしたため、驚きと不安を感じている。

ウ　自分は詩的な発想を大切にしているため、小説でも詩人のものにしか縁がなく、小説の薦めを含んだ梶井の質問によい返事ができず申し訳ないと思っている。

エ　自分の小説に対する関心のなさや低評価を意に介せず、梶井が前のめりになって志賀直哉の小説の魅力を伝えてきたため、独りよがりな姿勢に困惑している。

問五　文章中 A ・ B に入る語句として最も適当なものを、文章中からそれぞれ二字で特定し、そのまま抜き出して答えよ。

問六　傍線部⑤「志賀直哉はいい作家かも知れない」とあるが、「私」がこのように考えを改めるきっかけとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　書くことに対する梶井の真摯な態度　　イ　詩に劣らない小説の魅力を伝えた梶井の熱心さ

ウ　小説を書く者同士に芽生える尊敬の念　　エ　小説と詩それぞれの自己信頼における共通部分

問七　本文に登場する「私」についての説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　自身の文芸創作に対する想いを努力に昇華させる力と、他人のそれにも価値を認め理解できる聡明さをもちあわせている。

イ　自身の個別の体験や考えをもとに他者の言葉を半端に理解したり、誤解によって危うい反応を示しそうな面をもっている。

ウ　自分の考えを相対化し他人の問いかけや助言に素直に応じる言動が、自身の枠を超えた学びや気づきにつながっている。

エ　自分の考えに強いこだわりと自信をもっているが故に、体裁を気にして他者に見栄を張った対応を見せてしまっている。

問八　本文の文章表現の特徴や効果についての説明として**誤っているもの**をア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア　冒頭の梶井と「私」の描写部分ではこの散歩がどれほど印象に残るものであったかを、詳細な場面描写と強調表現の繰り返しによって表現している。

イ　全体を通じ「私」の台詞は一部に限られ、梶井の台詞を軸に「私」の視点による内面語りの豊富さが心の動きを丁寧に追うことに効果をあげている。

ウ　梶井の問いかけや発言に対し「私」が熟考しすぐには応答しない様子を描くことで、梶井と「私」の文芸に関する歓談が深まっていることが分かる。

エ　文章の前半は事のいきさつや小説に話題が移っていくことを淡々と描くが、後半は書き手が出来事を振り返るかたちで「私」の内面を詳述している。

【　三　】次の文章は平安時代に成立した歌物語『大和物語』の一節である。次の文章を読んであとの問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された解答方法以外で記入した場合は採点されないため注意せよ。

大和の国に、男女ありけり。年月限りなく思ひて住みけるを、[*1]いかがしけむ、A女を得てけり。[*2]なほもあらず、この家に率て(a)来て、壁を隔てて据ゑ(b)て、B わが方にはさらに寄り来ず、①いと憂(う)しと思へど、[*3]さらに言ひもねたまず。

秋の夜の長きに、目を覚まして聞けば、鹿なむ鳴(c)きける。ものも言はで聞きけり。壁を隔てたる男、「[*4]聞き給(たま)(d)ふや、西こそ」と言ひければ、「何事」[*5]といらへければ、「この鹿の鳴くは聞き給ふや」と言ひければ、[*6]「さ聞きはべり」といらへけり。男、「さて、それをばいかが聞き給ふ」と言ひければ、C 女ふといらへけり。

われもしかなきてぞ人に[*7]恋ひ[*8]られし今こそよそに声をのみ聞け

と詠みたりければ、②限りなく愛(め)でて、この今の妻をば送りて、元のごとなむ住みわたりける。

【『大和物語』（一五八段）新編日本古典文学全集　※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

＊1　いかがしけむ…どういうわけか。　＊2　なほもあらず…これまでのようではいられなく。

＊3　さらに言ひもねたまず…全くねたみを言うことはなかった。

＊4　聞き給ふや、西こそ…お聞きになったか、西の部屋にいる人よ。　＊5　いらへければ…返答したところ。

＊6　さ聞きはべり…はい聞きました。　＊7　しか…そのように。　＊8　恋ひられし…恋い焦がれられた。

問一　二重傍線部a～dの読みを全てひらがな、現代仮名遣いで答えよ。

a　率（ゐ）て　　b　据（す）ゑ　　c　なむ　　d　給（たま）ふ

問二　波線部A～Dが指す内容について、同じものの組み合わせとして最も適当なものをア～カから選び、記号で答えよ。

ア（A、C）・（B、D）　イ（A、D）・（B、C）　ウ（A、B）（C、D）

エ（A、B、D）・（C）　オ（A、C、D）・（B）　カ（A、B、C）・（D）

問三　傍線部①「いと憂し」と思う理由として考えられるもののうち**適当でないもの**を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア　長年連れ添った夫婦仲なのに夫が後妻をもうけたこと。　イ　夫婦の家に若く美しい女が住みこみで働き始めたこと。

ウ　壁一つ挟んだだけの場所に前妻と後妻が住んでいること。　エ　妻を訪ねるにしても夫が後妻しか訪ねなかったこと。

問四　本文中の和歌について以下の問いに答えよ。

1　和歌中の「しか」は直前に見られる「鹿」を踏まえている。このように、あえて平仮名で書かれた一つの語に二つ以上の意味をもたせイメージを豊かにする表現技法を何というか、次のア～オから一つ選び記号で答えよ。

ア　倒置法　イ　体言止め　ウ　擬人法　エ　縁語　オ　掛詞

2　和歌中の係助詞「こそ」の意味と結びの語の活用形として最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

（意味）　ア　疑問　イ　反語　ウ　強調　エ　逆接　オ　限定

（活用形）ア　未然形　イ　連用形　ウ　連体形　エ　已然形　オ　命令形

3　1、2や後の【資料】を踏まえ、「しか」が指す内容として考えられるもののうち、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　秋に雄鹿が雌鹿を恋い慕うように前妻もかつて男に恋い慕われたように
イ　秋に雄鹿が雌鹿を恋い慕うように前妻もかつて男を泣いて恋い慕ったように
ウ　秋に雄鹿が雌鹿に呼びかけるようにかつて男が数ある女性のうち前妻を見初めたように
エ　秋に雄鹿が雌鹿に呼びかけるようにかつて男が前妻に泣いて結婚を懇願したように

【資料】福井県自然保護センター「シカの恋の季節」

奥山に紅葉踏みわけ鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき

突然ですが、こちらは百人一首でおなじみの猿丸太夫の歌です。秋の奥山でシカのオスがメスを呼ぶ姿に、離れた女性を想う男心を重ねて詠んだと言われています。

実際、秋になるとニホンジカ（以下、シカ）は繁殖期を迎え、それまでメスの群れとは別に生活していたオスたちは、甲高い声でメスにアピールします。平安の人々にとっては、この歌の意味を理解できるほどシカの生殖生態は一般的だったことに驚くと同時に、現代は自然との距離が離れてしまったということを思い知らされます。

【　平成三〇年十一月十六日「お知らせ」(http://fncc.pref.fukui.lg.jp/notice/13943.html)　】

4　「今こそよそに声をのみ聞け」の解釈として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　今まさに別の女性のもとに行ってしまわれてその方のお声ばかりお聞き下さい。
イ　今しがた聞いた鹿の鳴き声が貴方のお声に重ねられて別の場所でも想われます。
ウ　今となっては別の女性に恋い焦がれる貴方のお声を別の場所で聞くばかりです。
エ　今になってお別れして別の場所へ行ってしまわれた貴方のお声を聞きたいです。

問五　傍線部②「限りなく愛でて」とあるが、この時の「男」の心情として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　男が手持ち無沙汰でいるところへ、前妻がその心を慰めようと語り合おうとする姿に思い遣りを感じ、秋の夜長の寂しさを理解しない後妻に興がさめている。

イ　男が前妻に何気なく挨拶した時、前妻が機知に富んだ歌を返したことで、後妻に比べ身分や教養の高さがうかがわれたため自身の出世に役立つと感じている。

ウ　男が前妻への心変わりをあからさまにしているにもかかわらず、ひどい仕打ちに耐え、男への誠意と辛抱強く待ち続ける姿勢を詠んだ女の歌が秀逸だと思われた。

エ　男が秋の夜長の情趣の共感を前妻に求め声をかけたところ、彼女は同じ心であるだけでなく、巧みに男への想いを詠んだ歌を返したことに心動かされている。